

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2023年8月10日
【四半期会計期間】	第29期第2四半期（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）
【会社名】	株式会社ハウスフリーダム
【英訳名】	HouseFreedom Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小島 賢二
【本店の所在の場所】	大阪府松原市阿保四丁目1番34号
【電話番号】	072-336-0503
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 河辺 豊
【最寄りの連絡場所】	大阪府松原市阿保四丁目1番34号
【電話番号】	072-336-0503
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 河辺 豊
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神二丁目14番2号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第28期 第2四半期 連結累計期間	第29期 第2四半期 連結累計期間	第28期
会計期間	自2022年1月1日 至2022年6月30日	自2023年1月1日 至2023年6月30日	自2022年1月1日 至2022年12月31日
売上高 (千円)	6,161,640	4,880,473	12,966,610
経常利益 (千円)	124,685	186,355	553,218
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	110,321	96,470	420,213
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	111,320	101,465	420,546
純資産額 (千円)	2,725,810	2,959,043	3,035,036
総資産額 (千円)	15,242,427	15,764,819	15,103,827
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	27.35	23.92	104.19
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	17.9	18.8	20.1
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,285,277	715,962	453,450
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	606,024	432,890	554,316
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,455,991	599,275	845,781
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	3,349,366	3,073,114	3,622,691

回次	第28期 第2四半期 連結会計期間	第29期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2022年4月1日 至2022年6月30日	自2023年4月1日 至2023年6月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	17.19	10.75

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、社会経済活動の正常化が進み、緩やかに景気持ち直しの動きが見られます。しかしながら、世界的な金融引締め等が続く中、長期化するウクライナ情勢の緊迫、原材料及びエネルギー価格の上昇や為替相場における急激な円安等、依然として先行きは不透明な状況で推移しました。

当社グループの属する不動産業界におきましては、継続する政策支援や低金利環境を背景に、不動産需要は底堅く、不動産市況は堅調に推移しております。しかしながら、住宅需要につきまして新設住宅着工戸数は減少傾向で推移しており、急激な物価上昇や住宅ローン金利の先高観等に伴う住宅取得マインドの低下が懸念されます。また、ウッドショックによる木材価格の上昇は落ち着きつつあるものの、物価上昇に伴う建築資材全般に及ぶ仕入価格の高騰等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような事業環境の下、当社グループは、継続して中長期的な成長に向けた事業展開を推進し、既存事業の収益力向上、エリア内における更なるシェア拡大に加え、5事業分野のシナジー効果創出に向けた連携強化及び最適な事業ポートフォリオ構築に向けたストックビジネスの基盤整備を図ってまいりました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、当社グループの基幹事業である不動産仲介事業及び不動産賃貸事業における収益不動産販売は堅調に推移いたしましたが、新築戸建分譲事業において、販売件数が低調に推移したことで、売上高につきましては前年同四半期を下回る結果となりました。営業利益、経常利益につきましては、利益率の高い不動産賃貸事業の売上高が増加したことにより前年同四半期を上回りましたが、前年同四半期は一過性の特別利益が計上されていたため、四半期純利益は前年同四半期を下回る結果となりました。

以上の結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高4,880百万円（前年同四半期比20.8%減）、営業利益235百万円（前年同四半期比40.5%増）、経常利益186百万円（前年同四半期比49.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益96百万円（前年同四半期比12.6%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

不動産仲介事業

当社グループの中核事業と位置付けております不動産仲介事業におきましては、当社グループの地域密着戦略における要として、地域内情報の取得等他事業とのシナジー効果の最大化を目的に、関西、福岡及び中部エリアにおいて事業を展開いたしました。

この結果、当事業の売上高は934百万円（前年同四半期比8.5%増）、セグメント利益は87百万円（同38.0%減）となりました。

新築戸建分譲事業

新築戸建分譲事業におきましては、お客様ニーズにマッチした分譲住宅の供給を目標に事業を推進しております。当第2四半期連結累計期間につきましては、大阪・福岡・愛知エリアの販売件数が減少したため、売上高は前年同四半期を下回りました。利益面においては売上高減少に加え、物価上昇に伴う建築資材全般の仕入価格高騰の影響により粗利益額が減少し、前年同四半期を下回る結果となりました。

この結果、当事業の売上高は2,500百万円（前年同四半期比42.5%減）、セグメント利益は7百万円（同81.8%減）となりました。

建設請負事業

建設請負事業においては、注文住宅及びリフォームの請負事業を展開しております。当事業における売上高は480百万円（前年同四半期比12.5%減）、セグメント利益は51百万円（同49.4%減）となりました。

損害保険代理事業

損害保険代理事業におきましては、不動産関連サービスから派生する火災保険及び地震保険等の代理店業務を行っております。当事業における売上高は19百万円（前年同四半期比49.1%減）、セグメント利益は4百万円（同57.3%減）となりました。

不動産賃貸事業

不動産賃貸事業におきましては、関西圏を中心として主に住居用マンションやオフィスビルなどの賃貸不動産の仕入れ、賃貸及び販売に加え、小規模賃貸アパートの開発及び販売を行っております。当第2四半期連結累計期間につきましては、賃貸不動産の保有棟数増加に伴う賃料収入の増加と販売用不動産7件の販売により、当事業における売上高は944百万円（前年同四半期比161.0%増）、セグメント利益は304百万円（同179.0%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動による資金の減少715百万円、投資活動による資金の減少432百万円、財務活動による資金の増加599百万円となり、資金は前連結会計年度末と比較して549百万円減少しました。

この結果、当第2四半期連結会計期間末資金残高は3,073百万円（前年同四半期末残高3,349百万円）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の減少は715百万円（前年同四半期は1,285百万円の資金の減少）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益181百万円、棚卸資産の増加912百万円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は432百万円（前年同四半期は606百万円の資金の減少）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出429百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の増加は599百万円（前年同四半期は1,455百万円の資金の増加）となりました。これは主に、短期借入金の純増額646百万円、長期借入れによる収入1,124百万円、同借入金の返済による支出971百万円、配当金の支払額177百万円等によるものであります。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	13,000,000
計	13,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年8月10日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	4,110,000	4,110,000	東京証券取引所 (スタンダード市場) 福岡証券取引所 (本則市場)	(注)
計	4,110,000	4,110,000	-	-

(注) 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。また、当社は単元株制度を採用しており、1単元株式数は100株であります。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残高 (千円)
2023年4月1日～ 2023年6月30日	-	4,110,000	-	328,842	-	173,940

(5) 【大株主の状況】

2023年 6 月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己 株式を除く。) の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社オーエフコーポレーション	大阪府松原市天美我堂2丁目275	781,000	19.36
V Tホールディングス株式会社	愛知県名古屋市中区錦3丁目10-32	556,300	13.79
山西 みき子	大阪府富田林市	403,000	9.99
小島 賢二	大阪府松原市	204,000	5.06
森光 哲也	福岡県福岡市東区	200,000	4.96
ハウスフリーダム従業員持株会	大阪府松原市阿保4-1-34	143,630	3.56
増田 直樹	大阪府羽曳野市	120,000	2.98
日新火災海上保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台2-3	100,000	2.48
若杉 精三郎	大分県別府市	61,000	1.51
株式会社 S B I 証券	東京都港区六本木1-6-1	54,100	1.34
計	-	2,623,030	65.04

(注) 上記のほか、自己株式が76,860株あります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年 6 月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式 (自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式 (その他)	-	-	-
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 76,800	-	-
完全議決権株式 (その他)	普通株式 4,031,300	40,313	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 1,900	-	-
発行済株式総数	4,110,000	-	-
総株主の議決権	-	40,313	-

【自己株式等】

2023年 6 月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数の 割合 (%)
株式会社ハウスフリーダム	大阪府松原市阿保 四丁目 1 番34号	76,800	-	76,800	1.87
計	-	76,800	-	76,800	1.87

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年1月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,643,335	3,093,998
売掛金	10,779	8,471
販売用不動産	4,857,605	4,824,489
仕掛販売用不動産	4,456,558	5,340,799
未成工事支出金	56,528	95,112
その他	283,793	229,685
貸倒引当金	45	32
流動資産合計	13,308,555	13,592,525
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	297,365	403,546
機械装置及び運搬具（純額）	7,472	6,874
工具、器具及び備品（純額）	6,772	5,859
土地	1,074,142	1,303,826
リース資産（純額）	31,773	27,491
建設仮勘定	18,500	74,000
有形固定資産合計	1,436,026	1,821,597
無形固定資産		
のれん	59,650	48,466
ソフトウェア	4,802	3,810
商標権	76	56
その他	235	235
無形固定資産合計	64,765	52,567
投資その他の資産		
投資有価証券	45,312	52,512
繰延税金資産	77,397	74,872
その他	171,361	171,365
貸倒引当金	4,214	4,214
投資その他の資産合計	289,856	294,536
固定資産合計	1,790,647	2,168,701
繰延資産	4,624	3,592
資産合計	15,103,827	15,764,819

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
営業未払金	304,237	420,040
短期借入金	3,559,750	4,206,250
1年内償還予定の社債	27,200	27,200
1年内返済予定の長期借入金	1,058,644	1,633,206
リース債務	9,361	9,391
未払法人税等	31,404	33,918
契約負債	100,490	169,370
賞与引当金	92,289	72,308
製品保証引当金	25,952	24,319
その他	569,028	359,436
流動負債合計	5,778,359	6,955,441
固定負債		
社債	585,200	571,600
長期借入金	5,658,490	5,236,958
リース債務	22,452	18,140
資産除去債務	15,824	15,753
繰延税金負債	1,521	-
その他	6,943	7,882
固定負債合計	6,290,431	5,850,334
負債合計	12,068,791	12,805,775
純資産の部		
株主資本		
資本金	328,842	328,842
資本剰余金	173,940	173,940
利益剰余金	2,533,901	2,452,914
自己株式	32,246	32,246
株主資本合計	3,004,437	2,923,450
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	30,598	35,593
その他の包括利益累計額合計	30,598	35,593
純資産合計	3,035,036	2,959,043
負債純資産合計	15,103,827	15,764,819

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 1 月 1 日 至 2022年 6 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 1 月 1 日 至 2023年 6 月30日)
売上高	6,161,640	4,880,473
売上原価	4,438,045	3,116,285
売上総利益	1,723,594	1,764,188
販売費及び一般管理費	1,556,363	1,529,167
営業利益	167,230	235,021
営業外収益		
受取利息	28	25
受取配当金	1,081	1,177
受取手数料	9,155	8,398
その他	9,265	5,697
営業外収益合計	19,530	15,298
営業外費用		
支払利息	54,810	57,947
支払保証料	5,470	4,860
その他	1,795	1,156
営業外費用合計	62,076	63,964
経常利益	124,685	186,355
特別利益		
長期未払金戻入益	45,565	-
特別利益合計	45,565	-
特別損失		
固定資産除却損	-	4,830
特別損失合計	-	4,830
税金等調整前四半期純利益	170,250	181,525
法人税、住民税及び事業税	84,630	86,256
法人税等調整額	24,700	1,202
法人税等合計	59,929	85,054
四半期純利益	110,321	96,470
親会社株主に帰属する四半期純利益	110,321	96,470

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	110,321	96,470
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	999	4,995
その他の包括利益合計	999	4,995
四半期包括利益	111,320	101,465
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	111,320	101,465
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 1 月 1 日 至 2022年 6 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 1 月 1 日 至 2023年 6 月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	170,250	181,525
減価償却費	58,591	45,600
のれん償却額	34,496	11,184
貸倒引当金の増減額 (は減少)	16	13
賞与引当金の増減額 (は減少)	15,070	19,981
受取利息及び受取配当金	1,110	1,203
支払利息	54,810	57,947
固定資産除却損	-	4,830
売上債権の増減額 (は増加)	29,484	71,960
棚卸資産の増減額 (は増加)	1,393,188	912,585
仕入債務の増減額 (は減少)	35,019	90,065
その他	54,274	194,227
小計	1,139,941	664,895
利息及び配当金の受取額	1,110	1,203
利息の支払額	56,318	60,432
法人税等の支払額又は還付額 (は支払)	90,127	8,162
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,285,277	715,962
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1,620	240
有形固定資産の取得による支出	552,650	429,239
その他	51,753	3,410
投資活動によるキャッシュ・フロー	606,024	432,890
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (は減少)	1,397,150	646,500
長期借入れによる収入	1,481,600	1,124,550
長期借入金の返済による支出	1,232,675	971,521
社債の償還による支出	13,600	13,600
配当金の支払額	160,745	177,654
その他	15,737	8,999
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,455,991	599,275
現金及び現金同等物の増減額 (は減少)	435,310	549,576
現金及び現金同等物の期首残高	3,784,677	3,622,691
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,349,366	3,073,114

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 1 月 1 日 至 2022年 6 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 1 月 1 日 至 2023年 6 月30日)
給与手当	544,661千円	522,322千円
賞与引当金繰入額	65,466	63,356
製品保証引当金繰入額	5,665	921

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 1 月 1 日 至 2022年 6 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 1 月 1 日 至 2023年 6 月30日)
現金及び預金勘定	3,373,250千円	3,093,998千円
預入期間が 3 か月を超える定期預金	23,883	20,883
現金及び現金同等物	3,349,366	3,073,114

(株主資本等関係)

前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 1 月 1 日 至 2022年 6 月30日)

配当に関する事項

(1)配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1 株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年 3 月25日 定時株主総会	普通株式	161,325	40	2021年12月31日	2022年 3 月28日	利益剰余金

(2)基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間末後となるもの
該当事項はありません。

当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 1 月 1 日 至 2023年 6 月30日)

配当に関する事項

(1)配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1 株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年 3 月24日 定時株主総会	普通株式	177,458	44	2022年12月31日	2023年 3 月27日	利益剰余金

(注) 1 株当たり配当額には、東京証券取引所スタンダード市場への上場並びに福岡証券取引所本則市場へ市場変更による記念配当 4 円を含んでおります。

(2)基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間末後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	不動産 仲介事業	新築戸建 分譲事業	建設請負 事業	損害保険 代理事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高								
顧客との契約から生 じる収益	861,347	4,349,838	549,482	39,074	200,606	6,000,349	-	6,000,349
その他の収益(注)3	-	-	-	-	161,290	161,290	-	161,290
外部顧客への売上高	861,347	4,349,838	549,482	39,074	361,897	6,161,640	-	6,161,640
セグメント間の内部 売上高又は振替高	7,375	-	108,590	-	-	115,965	(115,965)	-
計	868,723	4,349,838	658,072	39,074	361,897	6,277,605	(115,965)	6,161,640
セグメント利益	141,918	40,467	101,243	9,664	109,326	402,619	(235,389)	167,230

(注)1. セグメント利益の調整額 235,389千円には、セグメント間取引消去16,104千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 251,493千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. その他の収益には、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸料収入が含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自 2023年1月1日 至 2023年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	不動産 仲介事業	新築戸建 分譲事業	建設請負 事業	損害保険 代理事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高								
顧客との契約から生 じる収益	934,737	2,500,431	480,755	19,895	761,044	4,696,864	-	4,696,864
その他の収益(注) 3	-	-	-	-	183,608	183,608	-	183,608
外部顧客への売上高	934,737	2,500,431	480,755	19,895	944,653	4,880,473	-	4,880,473
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,505	-	95,042	-	-	99,548	(99,548)	-
計	939,243	2,500,431	575,798	19,895	944,653	4,980,022	(99,548)	4,880,473
セグメント利益	87,979	7,380	51,199	4,128	304,987	455,676	(220,655)	235,021

(注) 1. セグメント利益の調整額 220,655千円には、セグメント間取引消去17,961千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 238,617千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. その他の収益には、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸料収入が含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 （自 2022年1月1日 至 2022年6月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2023年1月1日 至 2023年6月30日）
1株当たり四半期純利益金額	27円35銭	23円92銭
（算定上の基礎）		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 （千円）	110,321	96,470
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額（千円）	110,321	96,470
普通株式の期中平均株式数（株）	4,033,140	4,033,140

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年 8月10日

株式会社ハウスフリーダム

取締役会 御中

三優監査法人
大阪事務所

指 定 社 員 公認会計士 西川 賢治
業務執行社員

指 定 社 員 公認会計士 米崎 直人
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ハウスフリーダムの2023年1月1日から2023年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年1月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ハウスフリーダム及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は四半期報告書提出会社が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。